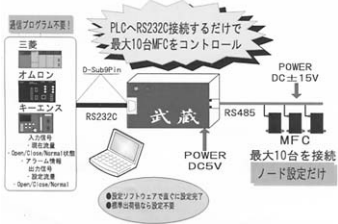


現場の声を聞いて開発された 『武蔵シリーズ』が話題！

佐々木設計

佐々木設計（東京都福生市福生一〇三七・和光ビル、☎〇四二一五一三〇〇）は、昨年の十二月五日〜七日まで幕張メッセで開催された「セミコンジヤパン」に、プロトコル変換器「武蔵シリーズ」を紹介し、好評を博した。半導体製造の現場においては流体の流量制御を行うマスフローコントローラを利用するが、このマスフローコントローラをCC-Link i n kで使用したいというニーズが高まっている。同社の「CC-Link 対応版 武蔵」は、そうした声を形にしたプロトコル変換器である。利用方法は、マスフローコントローラと本体をシリアルケーブルで接続し、更にPLCと本体をCC-Link接続するだけ。通信プログラムは不要。アナログ入力/出力ユニットも不要ですぐにマスフローコントローラとつながり利用することができる。最大16台のマスフローコントローラと接続することができる。



また、「シリアル通信用 武蔵」も用意されている。（2011年よりリリース開始）

面倒な通信プログラムは 不要ですぐに接続できる

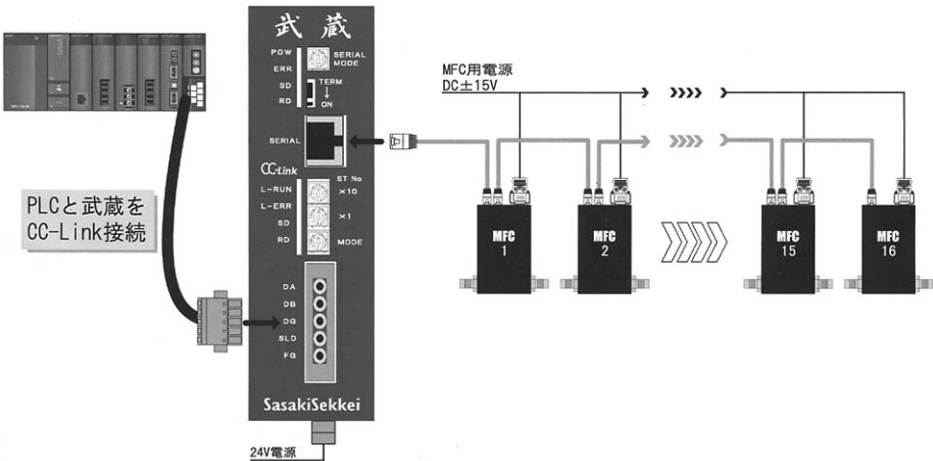
通信プログラムを開発するには、スキルと開発時間が大きな壁となり、四苦八苦して作り上げているが、その結果は期待する結果にはほど遠く、やむなく断念するケースも少なくない。——といった現場のニーズに対応して開発されたゲートウェイユニットであ



シリアル通信用 武蔵

利用方法は、マスフローコントローラをRJ45コネクタで、PLCをRS232Cで接続し、専用の設定用アプリケーションを用いて、通信速度、接続台数といたったいくつかの項目を設定するだけ。設定はワイザールに沿って操作するだけで簡単につながる。面倒な通信用のラダープログラムを開発する必要がないため作業効率を大幅に削減することが可能。最大10台までのマスフローコントローラを接続できる。本体サイズは、33(W)×108(D)×95(H)mmと省スペース設計のため、場所を選ばずに設置可能。付属の取付プレートを使えばDINレールにワンタッチで取り付けることができる。

URL = <http://www.ssk-dsn.com/>



CC-Link対応版 武蔵のシステム構成例